

2023年度 第2回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2023年5月22日(月) 10:00~10:55

会 場 本部棟会議室2 (オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、荻野理事、岡島理事(オンライン)、佐野監事、中野監事

出席教職員 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼地域産学連携センター所長、常盤学生支援センター長、福田副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、山口企画・情報担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長

【視聴】

金村研究科長、濱口研究開発センター長、延原情報センター所長、東高等教育開発センター長、滑川保健センター所長、山口高等教育開発センター副センター長、北畠地域産学連携センター副所長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、久保田作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長

議事概要

【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

第3号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。
案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

・教授や准教授の応募資格に明確な基準はあるか。応募資格を見てもよく分からない。

- 文科省の規定では教育研究業績に差はないが、教授は大学運営に資する能力のある者とされている。
大学運営にあたって学科長やセンター長といった管理職は教授である必要があるため、大学として一定人数の教授が必要になる。どのように大学、各学科を運営するかを考えて、職位ごとの人数を考えなくてはならない。教授の人数割合については、公立大学全体の教授の人数割合が1つ参考になると考えている。
- ・採用は、最後は「人」である。良い人物を採用するため、職位は狭めず、間口を広げた方が良いのではないか。
- 本学の教員採用は、学内外を問わず公募で行っている。
個人的には、本学のことや人となりを分かっている本学の准教授が、外部の教授に引けを取らない教育研究業績を持ち、公募の中で採用されることが望ましいと考える。
- ・公募では学内者と学外者は平等に扱うのか。教員のモチベーションは維持できるのか。また、このような公募形式は一般的なのか。
- 仮に全く同じ能力・立場であれば、学内者が有利になることはあり得る。また、別途内部昇任の規定を設けている。
公募のやり方は大学ごとに異なり、自由である。ただし、学内の昇任ばかりにしていると、大学は劣化してしまう。大学の質を保つためには、両方が必要である。

報告事項1 2022(R4)年度卒業生就職・進学内定状況について

資料に基づき、常盤学生支援センター長から報告した

主な発言は以下のとおり

- ・県内就職率は、県内の雇用の動向、受け入れ側の事情に左右されるが、60%を達成できる見込みはあるか。
- 厳しい数字だとは思いますが、県内には保健医療福祉関係の就職先はまだまだあり、達成できない数字とは考えていない。
中期計画策定時には、法人評価委員会に対して、これまでのやり方では達成できず、入試制度の見直しなどが必要である意見を述べた。
目標設定された以上、最大限の努力をするが、我々の努力だけではどうしようもない部分もある。当時の法人評価委員会からは、プロセスも評価するとされている。
- ・高齢化の影響などを踏まえ、県内就職率の今後の見込みはどのように分析しているか。
- 例えば看護学科では、県立病院等の推薦制度を積極的に活用することを進め、今後も県内就職率を向上させていきたい。一方で、保健医療福祉職ではなく、一般企業等に就職する学科では景気に左右されるため、低下の懸念もある。
なお、看護師を例に挙げるが、関東近県で埼玉県は唯一、県内就職した場合の奨学金免除制度がない。免除制度の有無は県内就職率に影響するものと思われる。

・県内就職率に関する当時の法人評価委員会の考え方はしっかり記録に残し、今後も主張していくべきである。

・進路決定率 99.5%は努力した結果であり、評価したい。

報告事項2 オープンキャンパスの開催について

資料に基づき、小原教務・入試担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

・オープンキャンパスの周知に関して、高校訪問を実施しているとのことだが、県内高校のみか。近県の志願者が多い高校も訪問しているのか。

→県内高校に限らず、県外の志願者が多い高校にも訪問している。

・同伴者1名となっているが、厳密な運用をするのか。

→同伴者1名までと周知はするが、当日来学してしまった方を追い返すようなことはせず、人数が限られるプログラム等を除いては、参加できるようにしたい。

・交通アクセスや食事についてどのように案内しているのか。

→公共交通機関の利用を案内しており、当日はバスを増便する予定である。食堂もオープンし来場者に利用できるように調整している。

報告事項3 新型コロナウイルス感染症5類移行への対応について

資料に基づき、星学長から報告した

主な発言は以下のとおり

・実習の受け入れ状況とワクチン接種に対する考え方を教えていただきたい。

→臨床実習については、施設から求められる感染対策、例えば2週間の健康観察を実施するなどして、実習を進める。ワクチンについては基本的には推奨するものの、これまで同様に各個人の意思を尊重する。

- ・ いかに関内はしっかり感染対策をしても、学外での活動で感染してしまうのではないか。
- 学外の行動を制限することはできないので、学生には自分の立ち位置を認識していただき、自己管理・自己責任の意識を促していきたい。

以上